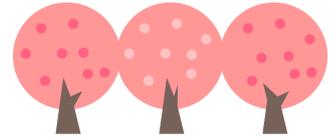




# TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部  
国際センター ニュースレター

Vol. 29 Spring, 2017



## 1. Hello from Graduates!

今号では社会で活躍する3名の卒業生を紹介します。それぞれが留学で培ったスキルを仕事に活かし、自分の置かれた場所で奮闘しています。海外留学をすると語学を習得するのはもちろんですが、それ以上に素晴らしい人間力を身に付けることができます。留学を終えた学生も、留学中の学生も、これから留学を考えている学生も、彼らの今を知ることは参考になるのではないのでしょうか。

### 若井 寛実 (2010年外国語学部卒業)

## 全世界の企業の人達と肩を並べて戦える マルチプレイヤーを目指して



#### <経歴>

- 2006年4月 大阪学院大学外国語学部ドイツ語学科入学
- 2007年9月～2008年7月 ドイツ・トリア大学へ交換留学
- 2010年3月 大阪学院大学外国語学部ドイツ語学科卒業
- 2010年4月 三光株式会社入社(東京支店)
- 2017年1月 SANKO EUROPE GmbH(ドイツ・デュッセルドルフ)



#### 外国語を学ぼうと思ったきっかけ

##### <高校時代>

外国に興味があったものの、英語は全然できませんでした。私の地元は北海道旭川市という小さな町で、高校時代は外国人なんてほとんどいない環境で育ちました。大学生になるまでは一度も海外に行ったことがなく、また家族も海外へ行ったことがなかったため、当時の私はただ単に海外に強い憧れを抱いていただけでした。

高校時代、大学の進学先を決めなければならない時期に、特にやりたいことや目標もないまま、ふとテレビを見ているとドイツの特集番組に目を引かれました。その番組ではドイツ特有の古城や街並み、日本では考えられないサイズの食べ物、見た事のないお祭り等、まるでおとぎ話の国にも引きずりこまれたかのような感覚になり、この国へ一度行ってみたいと思いました。ドイツに行くためにはドイツ語を勉強することが一番の近道と考え、大阪学院大学ドイツ語学科に入学しドイツ語の勉強をすることに決めました。

##### <大学時代>

大阪学院大学入学後は、学年では誰にも負け

ないという志を持ってドイツ語の勉強をしました。その甲斐あって、大学内の交換留学選考試験に合格し、ドイツのトリア大学への交換留学の切符を手に入れることができました。ドイツ留学中はドイツ語の勉強はもちろんですが、ドイツ人学生や、ドイツ語を履修しているEU圏内の学生、他の日本の大学からトリア大学にきている学生など様々な人たちと出会い、友達の和が広がりました。

帰国後、就職活動を始めましたが、ただただドイツに行きたく、就職希望先はドイツに現地法人がある会社を選択し、現在私が勤めているメーカー兼商社の会社に就職しました。

**文法は間違えてもいい！相手に伝えることが大切！**

##### <現在>

私は現在、化学薬品、樹脂機能材品の商社の営業マンとして働いています。仕事で初めて英語を使うようになったのは、入社後1年目くらいのことでした。初めての海外とのやり取りは台湾の取引先で、当時はメール1通送るのにも30分以上時間を費やしていましたし、初めての海外出張で取引先と価格交渉をしている時は頭が真っ白になっ

### 目次

<b>Hello from Graduates!</b>	1-3
<b>Summer School～ 香港理工大学</b>	4
<b>新規提携大学紹介 Universidad San Jorge</b>	4



たりして、満足な交渉ができなかったことを覚えています。

このままではまずいと思い、ビジネスで使える英語勉強を開始しました。朝9時から夕方6時まででは通常業務、6時以降は取引先との会食等で、当時は本当に時間がありませんでしたが、社会人たるもの時間を作らなければならないと考え、会社へ行く前や、帰宅してからの時間はとにかく英語を勉強しました。

勉強を続ける一方、普段のメールのやり取りや、出張先での交渉はすべて英語で行わなければならない、とりあえず伝えたいことを文章にし

て、要点を纏めて伝えていました。そこで気づいたことは、意外と文法がぐちゃぐちゃでも伝わるといことです。単語の羅列でも十分相手には伝わるし、文法が合っているかどうか気にすることや、恥ずかしくて英語が話せないとか言っていることが無駄だと気づきました。仕事における英語交渉のポイントとして、英語の文章を完璧に作るよりも、交渉内容や伝えたいことを明確にすることが大切だと考えるようになりました。英語勉強や海外とのやり取りを続けていくことで、いつの間にかメールでのやり取りや、電話対応、現地での

交渉もスムーズにできるようになっていました。

**全世界の企業の人達と肩を並べて戦えるマルチプレイヤーを目指して**

<今後>

入社7年目にしようやく、念願だったドイツ支店に駐在をすることになりました。今後は留学時代に身に付けたドイツ語のスキル、入社してから勉強した英語のスキルを活かして、ドイツ国内やヨーロッパ諸国の企業、全世界の企業の人達と肩を並べて戦えるマルチプレイヤーとして活躍していきたいです。

## 🇺🇸 中野 遼 (2014年国際学部卒業) (株)吉川国工業所(like-it) 勤務

**“Forever is composed of nows.” by Emily Dickinson**  
永遠は今の積み重ねでできている。だから今を大切にしよう。



ミシシッピ大学の友人たちと

た。私はミシシッピ州についてよく知りもせず、「田舎だから何もなさそう」という勝手な思い込みをしていました。しかし、その土地に足を踏み入れた瞬間、そんな私の考えは間違いだったと気付きました。なぜならそこでは今まで見たことのない新しい世界があったからです。この時に、私は自分がそれまでどれだけ狭い世界で生きていたのかを痛感しました。そのため、留学生活が始まってからは、現地の人々や留学生たちと積極的にコミュニケーションを取り、12時間のダンスマラソンや地元でのボランティア活動など様々なイベントに参加しました。また、できるだけ多くの場所に行きました。自分の知らない世界についてより深く知ろうと行動したことから、私は社会で役立つ力を身につけることができました。それをここで在学生の皆さんにお伝えしたいと思います。

現在、私はプラスチック用品メーカーの海外営業部で働いています。仕事内容は主に、顧客とのメールや電話のやり取り、インボイスやパッキングリストの作成、契約書の翻訳作業、出荷業務、製品の仕様書作成、生産依頼書の発行、取引先への訪問、海外で開催される展示会の出展作業などです。これらの業務を行う中で、留学生活によって得られた3つの力が役立っています。

1つ目が「コミュニケーション能力」です。業務上、様々な国の人々と関わる機会が多く、よく仕事のやり方に違いを感じます。違いがあるのにこれまでのやり方に固執しても仕事はうまくいきません。留学生活でも、自分とは

異なった文化の人々と多く関わります。そのような状況の中では、とにかく積極的に話し、相手を理解する努力をすることでコミュニケーションが成り立ちます。私は留学先で様々なイベントに参加する中で多くの人々とコミュニケーションを取ってきました。この経験によって、相手のことを理解するために必要な柔軟な考え方を持つことができたと感じています。これは海外の顧客に限った話ではなく、社内でもコミュニケーションを積極的に取ることによってお互いの業務の進捗状況を確認できますし、特に製品の仕様書を作成する上では、実際に製品を作る関係者に資料を見せて分かりやすいかどうか確認することでミスを防ぐことができます。ここでもこのスキルは大いに役立っています。

2つ目は「対応力」です。仕事をしていると、どれだけ気を付けていても問題が発生することがあります。この時、問題が起きたからといって慌てているだけでは何の解決にもなりません。異国での生活や旅には自分が想定していなかったような出来事に遭遇します。しかし、そのような状況に置かれても、自分で考え、取るべき手段を選択し、それらのトラブルを乗り越えていかなければいけません。そして、それらを乗り越えることによって自分に自信が持てるようになります。私はその経験のお陰で、仕事に何か問題が起きて慌てずに、今できることは何か、どうすれば被害を最小限に抑えられるかなどを考える余裕を持ちながら、状況に対応することができます。

最後は、「新しいことに挑戦する勇気」です。

**時** 経つのは早く、私が大学を卒業してすでに3年の月日が流れました。学生生活を振り返って、あの時私が必死に頑張っていたことは、アメリカの大学に留学するという目標を達成するために英語を勉強すること、そして留学生活に必要な資金を貯めることでした。

その後、3年次で目標を達成し、アメリカのミシシッピ大学で約1年間の留学生活を送りました。かつて、アメリカの作家 William Faulkner は“To understand the world, you must first understand a place like Mississippi.”(世界を理解するには、まずミシシッピのような場所を理解しなければならない)と言いました。当時、私はこの言葉の意味がよく理解できませんでし



社会へ出ると自分が経験したことのない多くの業務に携わることになります。私の場合、海外出張、展示会への出展、イラストレーターを使った仕様書作成、来社されるバイヤーのための観光案内、小学生の前での会社説明など常に新しい取り組みがあります。それは、慣れ親しんだ故郷を遠く離れて、知らない世界へ飛び込んでいく留学にも当てはまります。自分の国とは全く異なった文化の中で生活するには勇気がいりますが、同時にそれは自分を大きく成長させてくれます。私が初めて海外の展示会に参加した時、その場にいた人々や会場の雰囲気にも圧倒され、商談中もうまくいかどうか不安で、手の震えを隠しながら接客していたことを今でも覚えています。しかし、私は来場者に

声を掛けることをためらうことはありませんでした。そして、声を掛け続けたことでいつの間にか手の震えは消えていました。今でも、初めてのことには挑戦するのは怖いと感じることもありますが、留学を通して私は一歩前に踏み出す勇気が持てるようになったと信じています。

私には将来海外で暮らしたいという夢があります。もちろん今のままでは異国の地で生きていくための実力や資金が不足しているのは分かっています。しかし、その夢を実現するためにやるべきことは簡単だと思っています。なぜなら、実力がないなら身に付けばいい、お金がないなら貯めればいい、それだけだからです。留学へ行くためにやっていたこととなんら変わりありません。

アメリカの詩人Emily Dickinsonの言葉に“Forever is composed of nows.”というのがあります。これには「永遠は今の積み重ねでできている。だから今を大切にしましょう」という意味が込められています。時間は思っているよりも早いスピードで過ぎ去ってしまいます。一歩進むには勇気が必要ですが、後悔しないために、やりたいことがあれば必ずやるべきです。留学生活では、辛くて苦しいことがあるかもしれませんが、それ以上に素晴らしいことや世界の見方が大きく変わる体験ができます。私は今でも学生時代に留学できたことを本当に良かったと思っています。そして、会社で働き始めた時、私はようやくWilliam Faulknerの言った言葉の意味が理解できた気がしました。

## ★ 濱田 敬太 (2014年経営学部卒業) ジェットスター・ジャパン(株)勤務 何でもチャレンジすれば、チャンスがやってくる



香港・ヴィクトリアピークで友人たちと(本人左端)

**私**がOGUに入学したのは21歳の時でした。高校を卒業してからフリーターをしていたこともあり、遅い大学生活のスタートとなりました。そんな私がOGUの4年間で特に力を入れたことは、交換留学でした。留学をするために自分の英語力の向上、費用の工面、留学先で修得できる単位数の問題など下準備に苦労しましたが、努力の甲斐があり、必要な条件を全て満たし、香港理工大学に交換留学に行くことができました。

香港を選んだ理由はアジアの中でも有数の国際都市であること、また当時新しく提携したばかりの大学であったため、私が交換留学生第一号になれることに興味を持ち、思い切ってチャレンジしてみました。

実際に現地に着くまでは、香港での留学生活がどんなものになるのかあまり想像ができませんでしたが、香港は様々な国や地域の人々が共存する国際的な都市で、大学での講義は全て英語で行われていました。そのた

め、私生活でも大学生活でも世界中の人々に自分の考えや意見を正しく伝えるためには、相手にとって分かりやすく簡潔なメッセージを発信することが大事だと気付かされました。また同時に、留学先での講義も含め、国際都市であるからこそ学べたことは、互いの文化や習慣を尊重し、理解する力でした。私にとってこの交換留学プログラムは、下準備の期間も含めて様々なことにチャレンジし、人として成長することができた一番の思い出です。

私は現在、国内の航空会社ジェットスター・ジャパンで客室乗務員をしています。小さなお子さんから高齢者の方、外国人の方まで、日々多くの方々ジェットスターの翼を利用してくださっています。仕事柄たくさんの外国人のお客様と接する機会が多い私ですが、今でも留学時に学んだことが仕事で役立っています。しかしながら、みなさんがイメージされるような、留学で身についた語学力が役立っているわけではありません。役立っているのは留学時に学んだ、相手にとって分かりやすく簡潔な英語でメッセージを発信する力と相手の文化を尊重し、理解する力です。

1つ例を挙げると、機内アナウンスです。機内アナウンスは、食事などのサービス関連のものから機内安全、緊急時の説明まで1人ひとりのお客様に向けた大事な案内です。

日本語でも共通することですが、大事な案内だからこそゆっくりとはっきり話すことが大切になってきます。また、様々な文化や習慣を持った外国人のお客様が多いため、その

方々に合ったサービスを提供することや相手に合わせて対応をすることも、留学時に学んだことが役立っています。

今後ですが、これからもOGUの4年間で学んだこと、香港留学で学んだことを活かして、空の上で活躍していきたいと思います。日本ではまだまだ男性が少ない客室乗務員という職業ですが、私が活躍することによって、これまで興味がなかった人や、やってみたいけれど一歩が踏み出せないで悩んでいる人たちに目指してもらえそうな職業になれば嬉しいです。

最後まで読んでくださり、ありがとうございます。冒頭でも書きましたが、私はフリーターを経て、21歳で大学に入り、25歳で卒業しました。スタートが人より遅くても、大学に進学したことと在学中に留学を経験したことで、今の職業への道が付きましました。そして、今ではこの職業がきっかけで、いくつかのテレビ番組に出演させていただく経験もしました。何がきっかけになるかは人それぞれですが、何でもチャレンジすれば、色々なチャンスがやってくる私は自分の経験を通して思います。今回たまたま私の記事を読んで、とりあえずやりたいことにチャレンジしてみようかなという気になってくれた学生が一人でもいれば、とても嬉しいです。





## 2. Summer School～香港理工大学

### 外間 睦常 (2017年経営学部卒業)

#### よし、香港に行こう！

2016年5月にタイのバンコク大学での10カ月間の交換留学を終え、続いて同年6月と7月に実施された香港理工大学でのSummer Schoolに参加しました。

#### 気楽な天国バンコクから、地獄へ

バンコクでは比較的のんびりした毎日を過ごしていましたが、香港でのサマースクールは違いました。週に4日、朝は9:30～12:30、昼は2:30～5:30の間に授業が行われました。このサマープログラムには前期と後期があり、それぞれ2科目ずつ、計4科目の授業を履修することができます。私はビジネスの講義を2科目とデザイン、料理の講義を1科目ずつ履修しました。授業の難易度は教授により大きく異なりますが、共通して言えることは、どのクラスにも英語を苦手としている人はいませんでした。そのため、英語ができない人にとっては地獄です。しかし、逆に圧倒的に英語力を伸ばせる環境で

も一度も出ありません。「居心地の悪い場所に身を置くこと」とはまさにこのことだと思いました。

#### 世界22カ国から来たクラスメートたち

クラスメートは個性的な学生がたくさんいました。また、それまで会ったことなかったブルネイ、カザフスタン、スイス、エチオピアからの学生を始め、多国籍な学生で溢れていました。その環境は、互いの文化を尊重しあう良い雰囲気でした。私のルームメイトは30代半ばのフィンランド人でしたが、彼の年齢を気にする人など誰もいませんでした。日本から2時間という好立地ながら、多様な文化に触れることができるのが香港留学の1番の魅力だと思います。

#### 渇きを潤す休日

香港は都会と自然との距離が非常に近いです。通っていたキャンパスも都会の真ん中に位置しながら、学校終わりには山へハイキングに行くことができました。加えて、日常的にサーフィンや登山、キャンプなどを楽しむこともできます。また、世界一安いミシュラン1つ星のお店など、有名なレストランが数多くあり、グルメを探求できる街でもあります。夜景も観光客に人気のビクトリアピークだけではなく、「100万ドルの夜景」を一望できる場所が他にも多くあり、地元夜景スポットを探



世界22カ国からの参加者たち

すのも楽しかったです。

#### ありのままの自分を伝える

クラスメートの英語力、学力が高すぎて、最初については行くのに精一杯で大変でした。実際、ほとんどついていけなかったかもしれません。しかし、1ヶ月も経てばと言いたいところですが、もちろんそんないきなりついていけるようになる訳もなく、やはり必死で聞き返す、聞き返されるを繰り返していました。そこで、根本的な考え方を換え、相手の英語レベルに合わせて会話をしようとするのではなく、自分はどういう人間なのだというのを伝える努力をするようにしました。そうしたら、徐々に周りとのコミュニケーションがうまくいくようになり、ほぼ毎日行われた授業中のプレゼンテーションも余裕がでて、相手の感情を読み取り、そこから思いついた言葉で話せるようになりました。それでも英語レベルはまだまだですが、これから少しずつ語学力向上に向けてがんばっていきたくと思っています。



クラスメートたちと(本人右から2人目)

### 新規提携大学紹介 Universidad San Jorge

2017年3月にスペインの大学と初めての学生交換協定を締結しました。新規提携大学「サンホルヘ大学」はマドリッドから電車で約1時間のところにある都市サラゴサに位置しています。サラゴサは今でもローマ時代の遺跡が残る歴史的な町です。また、世界遺産「アラゴンのムデハル様式の建築物」に含まれる10の建築物のうち3つがサラゴサにあります。今回提携を結んだサンホルヘ大学は2005年に設立された私立大学で、キャンパス内には保健学、コミュニケーション、建築学、ポリテクニク、ガバナンスとリーダーシップの5つのセンターがあり、約2,000名の学生が学んでいます。スペイン語に加え、コミュニケーション学、社会学、建築学、工学、保健学の分野では多くの科目が英語で開講されているため、本学の学生は留学するとスペイン語、さらには英語で専門科目を履修することができます。遥か太古、歴史の息吹を感じるサラゴサで生活し、学んでみるのはどうでしょうか。



### ★ホストファミリーとホームビジットファミリーを随時募集しています。

興味をお持ちのファミリーは、詳細情報をお送りしますので、inoffice@ogu.ac.jpまでご連絡ください。

### 大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

TEL: 06-6381-8434 (代表)

FAX: 06-6381-8499

Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。  
http://inoffice.blog102.fc2.com/

